

# On your side

<https://toyono-jinjikyo.com/>

3

令和 5 年度（2023 年度）  
人権教育の推進について  
（中堅教諭等資質向上研修）

10月に実施した10年経験者研修第4回は、人権教育の推進をテーマとして、豊中市教育委員会学校教育課の花山司主幹にご講義いただきました。隣の学級の担任（教職2年め）から差別事象についての報告を受けたという事例をもとに受講者同士で意見し合いながら分析・協議をすることで、ミドルリーダーとして何ができるか、どうすればよいか、自分ならどう動くかを具体的に考えました。返却されたご自身の振り返りシートの記述やこの研修通信で、講義の内容と校内での役割を振り返ってみてください。

## ～ 振り返りシートより ～

- 今回、事例検討を通しての研修だったので、具体的な場面を想像して考えることができ良かったです。子どもたちの人権意識を高めるには、まず大人がしっかり人権意識を持ち、アンテナをしっかりとることが大切だと思いました。「差別に気づく」ことが出発点であり、そこから事象や背景を分析していくこと。そして何より当事者を守ることを日々意識していきたいと思います。そして、10年めの立場として、経験の浅い教員が気づかないことも気づいていって、校内の人権意識を高めていけるようにしていきたいです。
- どこでも起こりうる、もしかしたら起きているかもしれないという危機感を持ち、自身の人権感覚を常に確認するためにも、研修などで学ぶ場に進んで参加していきたいと思います。
- まずは自分自身が歴史的経緯や知識を学ぶことがとても大事だと思いました。自分自身が知らないのに子どもには伝えられないし、指導もできないと思いました。今回の事例検討での当事者の思いが非常に大切であることや今現在の社会の影響が大きいことを踏まえ、我々大人が人権について考え続けることが大事だと思いました。
- 日常で起こりうる内容のワークで、リアルの問題として深く考えることができました。ワークをする中で、当事者意識に立つという視点が抜け落ちて、問題解決だけを先走ってしまうことがあってはならないことを再確認、再考できました。
- 1つの事例を分けて考えていくことがとても分かりやすかったです。差別事象が発生すると、どこから手をつけていいかわからず、悩むことがありましたが、今日の講義のように〈発言の差別性〉〈事象分析〉〈背景分析〉に分けることで全体を把握しやすくなり、チームとして行動できるように感じます。
- 情報があふれている世の中なので、何が正しいのかを考える力や、情報を集める力がなければいけないと感じました。無知による人権侵害は自分自身も無意識に行っているかもしれないので、気をつけないと感じました。

研修当日に配付した大阪府教育センターが作成している「人権教育リーフレット」は、ここ数年で新たに作成されたものや内容が改訂されたものもあり、改めて多岐にわたる人権課題は時代や社会とともに変化し続けることと、常にアンテナを張り知見を広げる必要があると感じたと思います。講義の中でもありましたが、今後の人権教育の推進のヒント・きっかけとしてリーフレットを活用してください。

※研修時に配付した人権教育や学級集団づくりに関する資料は、大阪府教育センターWebサイト「教職員の方々へ」の「教材・資料等」からダウンロードできます。[https://www.osaka-c.ed.jp/matters/humanrights\\_top.html](https://www.osaka-c.ed.jp/matters/humanrights_top.html)

## 学び続ける教職員であるために

10年経験者研修は年間を通して「ミドルリーダーとしての役割を理解し、果たすこと」をテーマに実施してきましたが、「隣の学級の担任（教職2年め）から差別事象についての報告を受けた」という設定は、より一層みなさんの所属校の実情をふまえて役割や立ち振る舞いを考える内容だったと思います。

同時期（10月）に初任者研修でも様々な人権課題を知ることになった人権教育の研修を実施しましたが、初任者の中には今はまだあまりピンとこない人権課題もあったように見えました。差別事象のみならず、それらの人権課題と来年以降も、場合によっては向こう10年出会う「やり過ごしてしまう」こともあるかもしれません。しかし、実際は気づけずに見過ごしていた、見逃していたと言い換えられることもあるでしょう。初任者の先生方のことを、過ごした年数や時間がみなさんと比べて少ないゆえ、「経験が少ない」というのなら、10年という時間を過ごした分、みなさん自身が「経験してきたこと」を周りに伝えていくことが、その経験の少なさを補うことになるでしょう。実体験はもちろん、先輩から教わったことや、見たり聞いたりしたことも駆使しながら、一緒に考え、一緒に対応することを大切にしてほしいです。



10年を経て、すでに校内外で担う役割も多く、それぞれが日々お忙しく過ごされていることと思います。「忙」という字は「心を亡くす」と書きますが、忙しさの中でも**みなさんがなくしたくない心**はどんなものですか？世話焼きだねと言われるくらいの親切・思いやりの心、子どもと一緒に楽しく遊ぶ心、目標をもつ向上心など、つい忙しさを言い訳にして閉じ込めてしまっていたものはありませんか？最後の法定研修である10年研では、同じ経験年数の先生方と授業や教科のこと、学級や子どものこと、学校のことや教師としての自分のことを交流する中で、「自分の気持ちを内省する機会になった」という声を聞くことができました。

それでも忙しさを理由とすることはあります。誰もいつでも余裕があるわけではありません。この研修通信のタイトル「On your side」は和訳すると「あなたの味方」という意味です。“I’m always on your side.”（私はいつでもあなたの味方です）というフレーズを、研修担当者としてみなさんにお伝えしたいです。みなさんにとって「研修」が少しでも心の拠り所になっていれば幸いです。そして、みなさん自身も子どもたちや同僚の仲間に対し、「いつでも味方であるよ」という言葉をかけてあげられる人であってほしいです。支えあい励ましあい認めあいながら、みなさんがこれからも豊能地区で活躍されることを心から願っています！！

「教職員研修」についての情報は、所属市町教育委員会(教育センター)からの連絡・案内以外にも、豊能地区教職員人事協議会(<https://toyono-jinjikyo.com>)や、大阪府教育センター(<https://www.osaka-c.ed.jp>)のWebサイトからも確認することができます。今後も研修で「学び続ける」みなさんを支えていきます。

## お知らせ（研修に関する提出物について）

3市2町合同で実施する10年経験者研修（共通研修）は2月実施の第5回が最終回です。「研修実施報告書」（「研修の手引」P. 13～15掲載の【様式4】）と「選択研修報告書」（「研修の手引」P. 16掲載の【様式5】）を作成し、所属市町教育委員会（教育センター）が定める期日までに提出をしてください。